

ウッドマイルズ研究会 2008（平成20）年度 総会議事録

- 1 日 時 2008（平成20）年 7月 4日 10時00分から 11時30分まで
- 2 場 所 東京ビッグサイト（国際展示場）102会議室（東京都江東区有明3-21-1）
- 3 出席者 出席者、表決委任者 合計 59 名
 - 熊崎 実 日本木質ペレット協会会長
 - 藤原 敬 (社) 全国木材組合連合会常務理事
 - 白石 秀知 京都府南丹広域振興局農林商工部農林整備室
 - 松下 修 松下生活研究所代表
 - 相馬 秀二 (財) 下川町ふるさと開発振興公社クラスター推進部次長
 - 中桐 秀晴 山梨県森林総合研究所林業普及指導員
 - 近藤 勝 (有) 北銘サポート 代表取締役
 - 近藤 淳 (協) 山梨県産材健康住宅研究会
 - 山村 いづみ
 - 榎本 崇秀 (株) 山長商店取締役内地材部長
 - 中村 泰子 (株) 茨城県南木造住宅センター
 - 山中 貞行 山梨の木で家をつくる会会長
 - 青柳 正史 山梨の木で家をつくる会
 - 志沢 美香 山梨の木で家をつくる会
 - 高橋 理恵 和温waonスタジオ代表
 - 滝口 泰弘 NPO法人 WOOD AC
 - 坂崎 有祐 NPO法人 WOOD AC

(+ 表決委任者42人)

正会員総数（平成20年7月4日現在）91名の過半数超により、会則第14条にもとづき開会）

4 審議事項

- (1) 議長選任の件
- (2) 議事録署名人の選任の件
- (3) 2007年（平成19年）度事業報告及び収支決算について
- (4) 2008年（平成20年）度事業計画及び収支予算について
- (5) 役員を選任の件
- (6) その他

5 議事の経過の概要及び議決の結果

(1) 議長選任

- ・議長に、藤原敬が全会一致で選出された。

(2) 議事録署名人の選任

- ・議事録署名人に、滝口泰弘、坂崎有祐を選任したいとの提案があり、承認された。

(3) 2007年度事業報告及び収支決算について

- ・事務局より、2007年度事業報告（案）及び収支決算（案）について説明。（別途総会資料参照）

<以下、質疑応答概要>

- ・昨年度総会時にも、活動資金の拡充方法が議論になったが、何か新しい策はあるか。
 - ・活動資金の拡充については毎年懸案事項であるが、新たに今後3年間の活動助成金の獲得ができたこともあり、今年度の組織体制については現状維持とする。(事務局)
 - ・各地の自治体の動きはどうか。
 - ・北海道は他自治体の様子を見ている状態(近藤)。京都府は少しトーンダウンしている(白石)。
 - ・大阪府では新たな分野でCO₂表示が始まっていると聞いている(藤原)。
-
- ・2007年度の収支決算の監査結果について、監事より問題なしと報告された。(別途監査報告書有り)
 - ・以上の議論を経て、2007年度の事業報告並びに収支決算について、全会一致で可決された。

(4) 2008年度事業計画及び収支予算について

- ・事務局より、2008年度事業計画(案)及び収支予算(案)について説明。(別途総会資料参照)

<以下、質疑応答概要>

- ・日本建築士会連合会を通じたウッドマイルズ普及活動について、建築士だけでは範囲が限られるため、全建連など、工務店を主体に普及した方が広がるのではないか。
 - ・算出講習会は今後は随時可能ということか。随時開催できる体制を作っている(事務局)。
 - ・木材の環境指標の連携について、今年度の具体的な目標は何か。全国一律ではなく、各地の特色に応じた独自基準を作り上げることを最終目的とし、今年度はその下地づくりとして、参画者を集めることを目標にしている(事務局)。
 - ・木材の環境指標の連携について3ヵ年計画とあるが、具体的に事業化し、メールを主体としたワーキンググループ等を設立して、毎年成果を確認していくことが必要である。
 - ・北海道では現在、JAS、合法性、乾燥、地域材、+、という5つの要素(5つ)によって、木材をラベリングできないか、という検討が始まっている。
 - ・山梨県では、山梨大学に色々とアドバイスをもらっているが、工学しかないため、FSCや木材LCA関係者をどのように引き込むかが今後の課題である。そのような対応窓口が研究会で作れるとよい。
 - ・何故、環境指標の統合なのかについては、木材の出口をしっかりと考える必要がある。消費地を都市と捉えるだけではなく、森林・山間地域ならでの出口も考えたい。
 - ・色々な出口があって良い。その意味で県境を越えられる可能性を持つウッドマイルズの意義は大きい。
 - ・九州では九州材の話もある。屋久島の例では、ほぼ全ての木材が島外からの移入であり日本の縮図となっている。木材がどこから来たものなのか、流通を規定するものが現状は何も無い状態なので、COC認証とウッドマイルズCO₂を併用した指標が望まれる。また、住宅を建てる人のための環境指標とするのが、最も幅が広がると思う。
 - ・CASBEE等の建築の環境指標との連携だが、幅の広い建築ベースとなると、ウッドマイルズの要求レベルが下がり、存在感が無くなってしまふのではと心配である。建築以外にも、製品や製紙チップ等の各々の範囲の中でウッドマイルズを使う方がよいのではないか。
 - ・ウッドマイルズの明快さを生かす今まで通りの使い方と、新たな連携統合という方向と、多面的に可能性を追求していきたい(事務局)。
-
- ・以上の議論を経て、木材の環境指標の連携及び統合の具体的な方法は、ワーキンググループを立上げ、検討を継続することにて、2008年度の事業計画並びに収支予算について、全会一致で可決された。

(5) 役員の選任

事務局より、2008年度役員の選任について、今年度は新会長及び新規役員の拡充を含めた提案を以下の通り提出。

会 長	藤本 昌也	(社)日本建築士会連合会会長
代表運営委員	藤原 敬	(社)全国木材組合連合会常務理事
運営委員	白石 秀知	京都府南丹広域振興局農林商工部農林整備室
運営委員	野池 政宏	住まいと環境社代表
運営委員	三澤 文子	岐阜県立森林文化アカデミー教授
運営委員	相馬 秀二	(財)下川町ふるさと開発振興公社クラスター推進部次長
運営委員	松下 修	松下生活研究所代表
監 事	辻 充孝	岐阜県立森林文化アカデミー講師
監 事	中村 泰子	「つくばスタイル」木の家クラブ事務局長

- ・2003年の研究会発足以来、山側の代表として会長を務めてきたが、今後のウッドマイルズは、より町側との連携を強化した運動とするべきである。200年住宅では町と山との連携が不可欠であり、カーボンフットプリントという総合的な指標も出てきた。研究会設立趣意書にもウッドマイルズはライフサイクルエネルギーの出発点とあり、研究会として今後どのような方向に進むべきか、議論する良い時期である。今年度から新たに就任頂く藤本氏のもと、是非、新しい方向に向かって進んで欲しい(熊崎前会長)。

(藤本新会長のコメントは別途総会資料参照)

- ・熊崎前会長は、今後は研究会顧問として、会をサポートして頂く。

- ・以上の議論を経て、2008年度の役員の選任について、全会一致で可決された。

(6) その他

事務局より、流通把握度の定義を一部修正したウッドマイルズ関連指標算出マニュアルVer.2008-01および同プログラムについて、春からのパブリックコメント募集を経て、問題なく発行する旨、報告があった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成20年7月11日

議 長 藤 原 敬 印

議事録署名人 滝 口 泰 弘 印

議事録署名人 坂 崎 有 祐 印